

過去最多、200人が出席

24年度
通常総会
一般会計予算案を可決

平成24年度の秋田高校同窓会通常総会は7月1日、秋田市中通のイヤタ力で開かれた。出席者は県内外から過去最多の約200人。熱気に包まれた総会は平成23年度の決算を承認するとともに、平成24年度の事業計画と一般会計予算案を原案どおり可決した。また、総額3千万円にのぼる寄付金を財源とする創立140周年記念事業に関する予算案も原案どおり可決承認した。

総会は初めに豊口会長が挨拶に立ち、この中で140周年事業に関する募金について、同窓会員各位のご協力、各年度の結束をお願いしたいと述べ、協力を呼びかけた。

続いて高橋校長が学校の近況を報告した。同校長は「わが生わが世の天職いかに」など校歌にある歌詞の意味をかみしめてもらうため、最近は生徒たちに校歌を全5番まで歌わせていることを紹介すると、会場から小さな驚きの声

が漏れた。豊口会長の進行で議事に移り、各常置委員会から平成23年度の活動報告と平成24年度の事業計画が提案され、いずれも原案どおり承認された。引き続き平成23年度の決算を議題とし、一般会計のほか基金会計、名簿会計、退職金

積立会計、資料館整備積立会計の4特別会計について寺田事務局長から各会計ごとに決算書が報告された。

これら決算の認定に当たって監査報告書にミスプリントがあることが判明、会場からこれを問題視する声が上がったため、執行部を代表して豊口会長が事前のチェックの不手際を詫びたうえで再発防止を期したいと理解を求めた。収支とも予算は適正に執行されていると認定した監査報告書について総会は結局、これを拍手で承認した。

次に総額で1866万8734円にのぼる平成24年度一般会計予算案と事業計画について審議した。予算規模は前年度からの繰越金が縮小したのに伴って、対前年度比54万円余の減額。速水財政委員長

は予算説明の中で、支出減の主な項目として送料の引き下げによるだより発行費、事務局のパソコン周辺機器修理がほぼ終わったことに伴う機器運営費などを挙げた。これに対して出席者から特に質問はなく、平成24年度一般会計予算案は原案どおり満場の拍手で可決承認された。

総会は最後に来年9月1日に母校を迎える創立140周年記念事業について協議した。事務局から①この周年事業を遂行するための予算はすべて同窓会員の寄付を原資とし、募金目標額は3千万円であること②支出の内容は母校の発



展・充実に寄与する教育振興基金と祝賀会や記念誌発行など140周年記念事業を行うための資金であることなどがあらためて説明され、総会は140周年記念事業予算案および実行委員会など部門別委員会の分掌について原案どおり承認した。

また、周年誌委員会の高島清子委員長を運営委員会の推

名簿40号A4判に 来年9月に発行へ

第2回運営委員会

平成24年度の第2回運営委員会が10月2日、秋田市の秋田ビューホテルで開催された。出席者は会長、副会長、監事のほか参与、各常置委員委員長、事務局などからあわせて18人。豊口会長、高橋校長の挨拶に続いて審議に入った。

最初に今年度上半期の事業報告と下半期の行事予定について事務局から説明があった。次いで各常置委員会と特別委員会から活動状況に関する近況報告があった。このうち財務委員会からは目標額3千万円としている140周年記念の募金状況について、これまで1216人の会員からあわせて920万円余りの寄付金

薦に基づき副会長（ホームペーJ委員会担当）とする人事案が提案され、拍手でこれを承認した。

総会に引き続き新日本製鐵代表取締役副社長の進藤孝生氏（昭和43卒）が「秋田高校時代に得たもの」と題して記念講演を行った。（講演要旨は5ページに掲載）

金が寄せられている（8月31日現在）ことが報告された。

一方、記念事業を担当する行事委員会からは記念式典は学校側が、祝賀会は同窓会側が中心となって詳細を詰めているとの報告があった。また、名簿委員会からは名簿40号は今回から会員に確認カードを送ってデータの正確を期すこととしており、初のA4判で来年9月の発行を目指しているという報告があった。

酒の英雄

富野 巳代治
(昭和7年卒)

富野 和夫
(昭和34年卒)

〒010-0925 秋田市旭南3丁目7番48号
TEL 018-862-5983
FAX 018-862-5984